

第26回
FDフォーラム
報告集

.....
シンポジウム

大学の教育・研究・社会貢献に新しいモデルは生まれうるか？
～COVID-19の経験を踏まえてAI化・ロボット化した世界の担い手を構想する～

シンポジスト

岡本 仁宏 氏 関西学院大学 法学部 教授

杉森 公一 氏 金沢大学 国際基幹教育院高等教育開発・支援部門 准教授

コーディネーター

山口 洋典 氏 立命館大学 共通教育推進機構 教授

P 1～ コーディネーター 山口 洋典 氏 資料

P11～ シンポジスト 杉森 公一 氏 資料

P21～ シンポジスト 岡本 仁宏 氏 資料



公益
財団
法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

2020
年度

第26回FDフォーラム

あらためて大学とはなにか
～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

シンポジウム

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に 新しいモデルは生まれうるか？

～COVID-19の経験を踏まえてAI化・ロボット化した世界の担い手を構想する～

2020年度、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、新学期の授業運営は、所属元の組織的判断に基づきつつ教員個々が手探りで工夫を重ねることにより、開講準備が進められた。その端緒は、2万人を超えるメンバーが参加したFacebookグループ「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」（10月9日に「新型コロナ休講で、大学教員は何をすべきかについて知恵と情報を共有するグループ」から名称変更）で確認できる。

そこで本シンポジウムでは、COVID-19の経験をもとに、人口減少社会・グローバル化、そしてVUCAの時代の大学の存在と役割について探究する。コロナ禍から1年、SNSを通じた集合知はいかに働いたかを確認しつつ、大学における、あるいは大学のための新しいリテラシーを探究する機会としたい。

1



公益
財団
法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

2020
年度

第26回FDフォーラム

あらためて大学とはなにか
～コロナ禍を超えて新しい時代へ～



岡本 仁宏氏 関西学院大学 法学部 教授

経歴

1955年生まれ。西洋政治思想史の概念史研究から阪神淡路大震災を機にNPO等非営利社会活動研究に専門を広げ、「市民社会」をキーワードに二足の草鞋で研究中。京都大学法学部卒、名古屋大学法学研究科博士後期課程単位取得退学、滋賀大学専任講師を経て現職。この間、客員研究員としてYale大学・Westminster大学・Washington大学に滞在。

主な活動、著書

（社福）大阪ボランティア協会ボランティアリズム研究所所長、（公財）公益法人協会顧問。前日本NPO学会会長、前大阪府公益認定等委員会委員長等。『現代日本の市民社会』（共著）法律文化社、2019、『市民社会論』（共著）法律文化社、2017、編著『市民社会セクターの可能性』関西学院大学出版会、2015、編著『新しい政治主体像を求めて』法政大学出版局、2014等。



杉森 公一氏 金沢大学 国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門 准教授

経歴

1998年富山県立砺波高等学校普通科卒業。2002年筑波大学第一学群自然学類卒業。2004年筑波大学大学院修士課程教育研究科教科教育専攻修了。2007年金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。2007年金城大学研究員。2010年金城大学医療健康学部助手。2011年同助教。2013年金沢大学大学教育開発・支援センター准教授。2018年タフツ大学Center for Enhancement of Teaching and Learning 客員研究員。2016年より現職。専門は計算量子化学、理科教育および大学教育開発。修士（教育学）、博士（理学）。

主な活動、著書

共訳に『ROBOT-PROOF: AI時代の大学教育』、共著に『基礎から学ぶ統計解析』など。

2



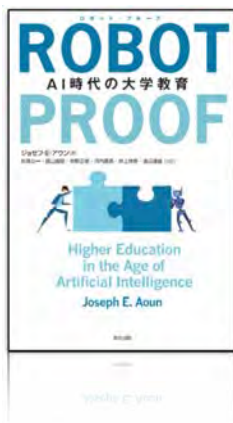
Facebook post interface showing a photo of a large, empty lecture hall with rows of wooden desks and red chairs. The text below the photo reads:

新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ

公開グループ・メンバー2.1万人

+ 招待する

3



ROBOT-PROOF : AI時代の大学教育 (2020年1月、森北出版)

ジョセフ・E・アウン(著) 杉森公一・西山宣昭・中野正俊・河内真美・井上咲希・渡辺達雄(訳)

私たちはデジタル時代に生きており、学生たちはAIを搭載したロボット、ソフトウェア、そして機械が、現在は人間が行っている仕事をどんどん担うようになる未来に直面している。同じことを日々繰り返すだけの仕事は少なくなっていくため、教育はそれに対応すべきである。卒業生が職場で「耐ロボット性」〔耐水性(ウォーター・プルーフ)を真似た造語〕をもつことを保証するためには、高等教育はカリキュラムを再び調整しなくてはならない。

(p.10、下線は引用に際して付与)

faceコロナでwith/afterコロナを Build Forward Betterに導く

～立命館大学の取り組み紹介を手がかりに～

山口 洋典（立命館大学共通教育推進機構）

gucci@fc.ritsumei.ac.jp



20210220 大学コンソーシアム京都 第26回 FDフォーラム

大学の教育・研究・社会貢献に新しいモデルは生まれるか？

～COVID-19の経験を踏まえてAI化・ロボット化した世界の担い手を構想する～

5

「立命館大学におけるCOVID-19への対応」 (山口洋典作成、2020年7月14日「京都府生協連緊急企画」にて紹介)					
日付	事象	部署	付記	授業	BCP
1/31	新型コロナウィルス関連肺炎に関する注意喚起	保健センター	外務省の危険レベルの引き上げに伴い	春休暇	
2/4	中国から帰国・入国する場合の注意事項について	保健センター	2週間の健康観察（37.5℃以上など）	春休暇	
2/7	新型コロナウィルス関連肺炎に関する注意喚起	保健センター	帰国者・接触者相談センターの設置に伴い	春休暇	
2/13	中国に在留中および渡航予定の学生への注意喚起	総務課	交通規制、航空便の運休等の状況を踏まえ	春休暇	
2/26	卒業式(8,080人/うち留学生472人)及び入学式(約8千人)中止	常任理事会	APUは2/20に、RUは2/25に感染症対策委	春休暇	
3/2	新型コロナウィルス感染症対策のための法人危機対策本部設置	理事長決定	3/5開設の特設ページに情報一元化し更新	春休暇	
3/2	式典・行事・イベント等に関する対応方針	危機対策本部	2月末～4月初旬、不要不急なものは自粛	春休暇	
3/10	Skype for Businessの利用開始	情報基盤課	職員は3/4～、学生は参加のみ	春休暇	
3/11	新型コロナウィルス感染者が発生した場合の対応ガイドライン	総務課	学生等、教職員、その他の3ケースを想定	春休暇	
3/16	2020 年度春学期開講にともなう授業形態の見直し	教学委員会	3/11学長決定、5/2まで感染拡大防止期間	春休暇	
3/30	2020 年度春学期を迎えるにあたっての学長メッセージ	総長・学長	社会や世界になしうる貢献を考える機会として	春休暇	
3/30	新入生オリエンテーションの実施にあたってのお願い	教学委員会	1日目の日程・時間は変更しない+三密対策	春休暇	
4/6	政府による『緊急事態宣言』が発令された場合の対応	常任理事会	入構禁止措置、諸活動自粛、原則在宅勤務等	Web	
4/6	春学期における一斉休講の判断および授業再開後の授業形態	教学委員会	春はWeb授業(ICTを広く活用・非対面全般)	Web	
4/13	式典・行事・イベント等に関する対応方針（改訂）	危機対策本部	第4報・7月末まで延長（直前は5/2まで）	休講	
4/16	オンラインコミュニティ Beyond COVID-19立ち上げ	SDGs推進本部	社会起業家支援プラットフォームの取り組み	休講	
4/20	5月7日の授業再開に向けた先生方へのお願い	教学委員会	シラバス修正、20MB以上ファイルの扱い等	休講	
4/21	5月以降のWEBを活用した授業再開	教学部	5/19-22登録修正、4/22第2報、4/28第3報	休講	
4/27	新型コロナウィルス禍に対する学びの緊急支援	常任理事会	約4.8万人に3万円、3万円x3に3,800人応募	休講	
4/27	5月7日以降の対応	危機対策本部	活動制限をBCPにもとづいて決定（5/7～）	休講	Lv4
4/30	Web授業のための特別サイト開設	教学部	www.ritsumei.ac.jp/startup/online2020/	Web	Lv4
5/7	5月7日以降の授業再開に向けたFAQ公開	教学部	academic.support.ritsumei.ac.jp	Web	Lv4
5/25	春学期における対面授業の限定的実施と夏期集中科目の取り扱い	教学委員会	キャンパス入構調整ワーキングで総人数調整	Web	Lv4
6/1	新型コロナウィルス感染拡大予防ガイドライン	感染症対策委員会	「新しい生活様式」実践例を踏まえ事業継続	Web	Lv3

シンポジウム

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に 新しいモデルは生まれうるか？

～COVID-19の経験を踏まえてAI化・ロボット化した世界の担い手を構想する～

2020年度、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、新学期の授業運営は、所属元の組織的判断に基づきつつ教員個々が手探りで工夫を重ねることにより、開講準備が進められた。その端緒は、2万人を超えるメンバーが参加したFacebookグループ「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」（10月9日に「新型コロナ休講で、大学教員は何をすべきかについて知恵と情報を共有するグループ」から名称変更）で確認できる。

そこで本シンポジウムでは、COVID-19の経験をもとに、人口減少社会・グローバル化、そしてVUCAの時代の大学の存在と役割について探究する。コロナ禍から1年、SNSを通じた集合知はいかに働いたかを確認しつつ、大学における、あるいは大学のための新しいリテラシーを探究する機会としたい。

7

あらためて大学とはなにか
～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に
新しいモデルは生まれうるか？

オンライン授業の有用性には同意する一方で、大学教育の今後に大きな不安を感じています。オンライン授業が主流になってしまうと、大学という教育の場が必要なくなり、極論すれば「オンデマンド授業が外注される」のではないかという危機感があります。このような中、各大学の授業として認められる、必要とされるオンライン授業の条件は何であるか、先生方のご意見を伺いたいです。

8

あらためて大学とはなにか ～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に
新しいモデルは生まれうるか？

山口先生、岡本先生、杉森先生、講演ありがとうございます。

コロナ禍の影響で、教育・研究の変容は止められませんが、教員・職員についてずっと前から「教職協働」が叫ばれており、教員と職員が協働しなければならないのは当然という考えが広まっていますが、今後の大学教育への変容への対応・適応を考えると「大学運営・経営」に関しては職員主導でなければいけないと個人的には感じています。教員は本業である教育や研究に専念し、その教育・研究で得た情報（統計や結果）を大学（職員/事務局）へ共有する、職員が主導し教員がそれをサポートする分業制が望ましいと考えています。文科省の学長のガバナンスに対して真逆のことを申していますが、今後の大学運営・経営について教員・職員の関係性についてご教示いただければ幸いです。

あらためて大学とはなにか ～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に
新しいモデルは生まれうるか？

「本当に元に戻らないのか？」

様々な災害や予期せぬ出来事が、社会の変容を促すということはあると思いますし、期待もしておりますが、日本の社会もそのようになるのでしょうか？チェルノブイリがドイツのエネルギー政策の転換を促しましたが、3.11で日本が変わったか？「対面しろ！」という感覚は、銀座で会食しなければコミュニケーションできないという感覚と同根で、そのような人々が主導する社会で、本当に元に戻らず変われるのでしょうか？

あらためて大学とはなにか ～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に
新しいモデルは生まれうるか？

今後、授業形態はオンライン授業と対面授業の二分化されると思います。それに伴い、教員の雇用条件も変容するかと思います。例えば、オンライン授業ができる技能を持ち合わせているといったことが考えられます。そうすると、その大学でのFDや大学院教育で特に博士後期課程の院生に対するFD教育が求められてくると思います。しかし大学院教育の部分ではまだまだ議論がなされていない状況であると感じています。今後、博士後期課程の院生へのFD教育について、自大学でできない場合は、大学コンソーシアムや外部機関のセミナー、ワークショップが益々重要になってくると思いますが、外部機関の重要性についてはどう思われますでしょうか。

11

あらためて大学とはなにか ～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に
新しいモデルは生まれうるか？

失礼いたしました。ツールに慣れることに困難さを抱える学生が多くいます。学生に対する説明会等の対応をどの程度なされていた者なのでしょうか。

4年後には情報教育を学んだ生徒が大学に入学することになりますが、本学においては、まだこの対応についての検討は遅れている状況です。文系の大学ですので、情報系の教員が不在です。最低でも、どの程度の情報リテラシー教育を教授する必要があるのかをご教授いただければ幸いです。IRを担当する事務職員（情報資格を保持していない者）に意見を求められても、回答ができない状況です。現在の教職員の構成員でのワーキンググループが必要になると考えておりますが、どのような構成員での検討が良いのかについてもご教授ください。

12

あらためて大学とはなにか ～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に
新しいモデルは生まれうるか？

製造業の会社を定年し、大学の職員として経理部門を2年経過しています。思うように改善が進まずいらしているところですが、杉森先生のおっしゃるのは、テキストでの学びは必要があり、なおかつ、教員・学生が共に楽しむ授業も重要でなのであると理解しました。会社時代にも手順書による説明+オンジョブトレーニングでより具体的に作業が会得できた経験があります。教員と学生、職員の先輩と後輩のコミュニケーションを密にできる学びの道具として、オンジョブトレーニングを活用したいと考えますがいかがでしょうか。

大学院がない（もしくは小規模）、あっても前期課程だけのところも多いです。コストの問題であることは承知していますが、大学院生がいないと遠隔教育は成立しないのでしょうか。

13

あらためて大学とはなにか ～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

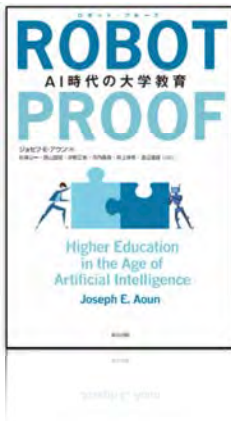
定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に
新しいモデルは生まれうるか？

対面授業に積極的な取り組みが見られたことは、外出自粛などさまざまな要素があるのかもしれませんが、対面授業の価値を学生自身も感じたためという要素もあるのではないかと感じています。対面授業の価値の問い直しについては杉森先生が言及されていましたが、もう少しご意見を伺いたいです。

現在、大学職員、図書館職員の多くが不安定な雇用の立場にあり、長期的なスパンで将来を見据えて教員と連携を図ることは難しい状況にあります。「2018年問題」の顕在化を待つ今、少子化と不況に伴う大学経営縮小に対する打開策を講じることは、旧帝国大学、大規模私立大学、各地域に根ざして発達してきた大学を除き困難と思われます。現実的な経営の問題として、大学の将来に対する展望をお聞かせ頂ければ幸いです。

14



ROBOT-PROOF : AI時代の大学教育 (2020年1月、森北出版)

ジョセフ・E・アウン(著) 杉森公一・西山宣昭・中野正俊・河内真美・井上咲希・渡辺達雄(訳)

経験は（中略）異文化アジリティ（異なる文化に機敏に対応する力）の本質的な要素でもある。筆者の同僚のポーラ・カリギウリによると、異文化アジリティとは「専門家が異文化に置かれた状況でうまく仕事をこなすための超重要スキル（メガ・コンピテンシー）」だという。過去には、異文化アジリティは、主にジェット旅客機に乗るビジネスマンや外交官だけのものと思われてきたかもしれないが、グローバル化によってこのスキルは皆にとって不可欠なものになった。（p.87、下線は引用に際して付与）

15



あらためて大学とはなにか ～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に
新しいモデルは生まれうるか？

地方大学事務職員のもので。コロナ禍の中、学生たちはもがき苦しみながら授業形態に慣れようと踏ん張っている状況を伺うことができました。その中でも、1年生はレポートを書くことの困難を抱えていていましたが、学生は大学での学びについて、これまで文献を読むこともなかったが、文献から学び得ることの発見や、友人通しで連絡を取り合い、ワーキンググループで意見交換し、新しい学びを発見していることも散見されました。アカデミックスキルズ、アカデミックライティングといった初年次教育の教が今、求められているものだと思います。

16

あらためて大学とはなにか ～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に
新しいモデルは生まれうるか？

オンデマンド授業やmoodle,レポート課題で済ませる授業となれば、今回のアンケートで多かったのが、「何が良くて何が悪かったのかの解答が待たない。フィードバックをしっかりと欲しい」という意見が多かった。受講生が多い先生にとっては難しい問題である。何か工夫されている先生がいればご紹介いただきたい。

オンライン授業で、アクティブラーニング（グループワーク）は、かなり苦労しましたが（対面式だと、一堂に各グループ見えるので状況を把握しやすい、また学生も各グループで、オンラインでのグループワークが難しそう）等、何か良い方法があれば、ご教授いただきたい。

17

あらためて大学とはなにか ～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に
新しいモデルは生まれうるか？

高校で教科「情報」が必修化されて、オンライン授業の視聴程度のリテラシーであれば身に付けて大学に入ってきていると期待していましたが、そうでもないようです。

オンデマンド授業でも、「双方向性」が求められると思います。そこに教員の関与が、現状では不可欠でしょう。ただ、ここが将来AIに置換される可能性があるかもしれませんね。AI-Proofな教員になる必要があるでしょう。

18



公益
財団
法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

2020
年度

第26回FDフォーラム

あらためて大学とはなにか
～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

シンポジウム

2月20日(土) 10:00～12:00

Zoomウェビナー

定員1,000名
(加盟校優先定員600名)

大学の教育・研究・社会貢献に 新しいモデルは生まれうるか？

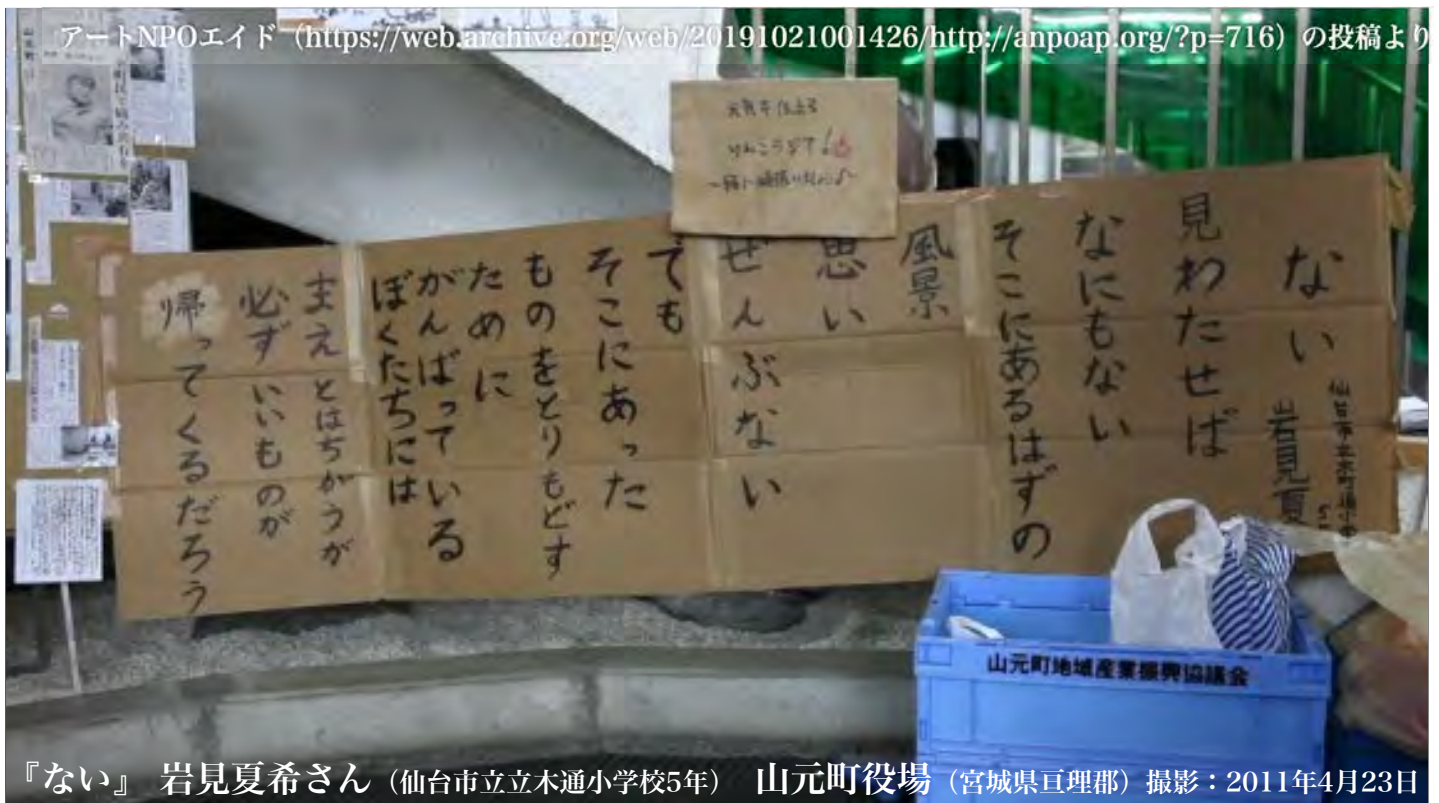
～COVID-19の経験を踏まえてAI化・ロボット化した世界の担い手を構想する～

2020年度、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、新学期の授業運営は、所属元の組織的判断に基づきつつ教員個々が手探りで工夫を重ねることにより、開講準備が進められた。その端緒は、2万人を超えるメンバーが参加したFacebookグループ「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」（10月9日に「新型コロナ休講で、大学教員は何をすべきかについて知恵と情報を共有するグループ」から名称変更）で確認できる。

そこで本シンポジウムでは、COVID-19の経験をもとに、人口減少社会・グローバル化、そしてVUCAの時代の大学の存在と役割について探究する。コロナ禍から1年、SNSを通じた集合知はいかに働いたかを確認しつつ、大学における、あるいは大学のための新しいリテラシーを探究する機会としたい。

19

アートNPOエイド (<https://web.archive.org/web/20191021001426/http://anpoap.org/?p=716>) の投稿より



『ない』 岩見夏希さん（仙台市立立木通小学校5年） 山元町役場（宮城県亘理郡）撮影：2011年4月23日

20



大学の教育・研究・社会貢献に 新しいモデルは生まれうるか？

AI時代の大学教育に求められる新しいリテラシー

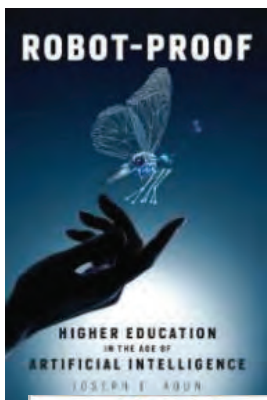
2021.2.20 大学コンソーシアム京都
第26回FDフォーラム シンポジウム・話題提供

杉森 公一（すぎもり きみかず）

金沢大学 国際基幹教育院
高等教育開発・支援部門 准教授

<https://bit.ly/ksugimori>

『ROBOT-PROOF: AI時代の大学教育』



原題 ROBOT-PROOF: Higher Education in the Age of Artificial Intelligence

ジョセフ・E・アウン著、杉森公一ら共訳（森北出版、2020年1月）

はじめに 人間ならではの教育

第1章 ロボットがもたらす未来への懸念

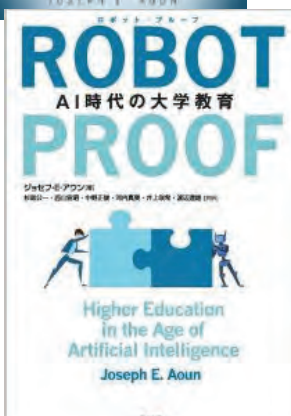
第2章 経営幹部からの視点：雇用者は何を求めているか

第3章 未来の学びのモデル

第4章 経験がもたらす違い

第5章 人生を通じた学び

おわりに 雇用者の役割／世界での取り組み／
誤った選択肢と、本当の選択肢



自己紹介と、本書共訳のきっかけ

- 演者の専門領域は、物理化学・理科教育・計算量子化学
学士(理学)2002 – 修士(教育学)2004 – 博士(理学)2007
- 学位取得後、私立大学で研究員・助手・助教 2007–2012
 - 介護・福祉・理学療法におけるリメディアル教育・情報リテラシー教育・統計教育
 - 視覚障害者、聴覚障害学生のためのアシスティブ・テクノロジー(福祉情報工学)
 - 運営管理業務として、認証評価・FD・初年次教育・教学IR・高大接続の企画に従事
- FDセンター・大学教育開発部門に専従 2013–現在
 - 年20～50件のワークショップ・講演・研修を開発
(アクティブラーニング、ルーブリック、学習環境アセスメント、組織開発、FLC)
 - 授業ポートフォリオ作成のための、FDリーダー制度のデザイン(金沢大学AP事業)
 - 年間200～300名の学生アドバイザー(LA)プログラムの研修・制度のデザイン
 - アカデミック・アドバイジングと学修支援の組織化、探究活動による高大接続デザイン
- 教育関係共同利用拠点(金沢大学FD・SD拠点)2017–2018
- FDセンター活動の再定義、その組織的展開について調査(2018–2019)
 - ➡ タフツ大学CELTへのサバティカル研修、北米大学の調査

3

米国大学教育開発をとりまくもの(2018の観測)

- ミッションの多様化・焦点化 **エンゲージメント、多様性と包摂**
- エビデンス・ベースド教育開発への注視 **学習成果**
- CTL(FDセンター)機能の再構築 **FDの評価**
- 教員のラーニングコミュニティ形成 **対話(ダイアログ)と協同**
- アセスメント、DBER、テクノロジー、学習の情意的な側面へのアプローチ **他領域との連携・統合、オンライン教育との融合**

➔ Center of Teaching and Learning (FDセンター) は

ミッションとビジョンを備えた、大学組織変革のハブ(結節点)

- CTLに所属するディレクター・スタッフの「境界性」から変革を触媒する
- 大学内で組織的に位置付けられ、専門職としてチームを組む
- 教育学習の専門家として捉えられるが、しかし、教員文化に対しては他者性を兼ね備える＝マージナルパーソン となる

2020年を振り返って

本邦の(世界の)FDは、変化の触媒となったか？

* 教員

- ・史上空前の、FD研修への参加者数を経験
- ・テクノロジーと授業づくりが密接になり、ほぼ全員がLMSとオンライン会議システムを使うことを与儀なくされた

* 教員と学生

- ・対面の価値が稀有なものとなり、一斉に孤立した
- ・対面授業の価値が問い直された

授業、学生生活、課外活動、教育・研究に関わるすべての課題が顕在化 (actualized) し、可視化 (visualized) された

そのことは、『ROBOT-PROOF』でも予見されていた
ロボットがもたらす未来への懸念(第1章)

- ・ 農業革命、産業革命、技術革命に次ぐ、
「デジタルとロボット」革命の時代 → ビッグデータとAIの登場
- ・ 知能機械: ワトソン (Watson)
 - スローン・ケタリング病院での「腫瘍専門医」
 - ニューヨーク市公立学校システムでの「教師」
- ・ C・B・フレイ、M・オズボーン(2013) など
 - 20年以内にアメリカでの仕事の半分以上が自動化の危機
 - 10年で、金融分野でのロボット・アルゴリズムが1/3～1/2
 - 人間が行っている有償の仕事の45%が自動化、
年間2兆ドル以上の人件費が支払われなくなる

新しい産業の創生、高等教育の役割

- かつて、ジェニー紡績機に職を奪われた織工や情報化時代に多くの製造業が一掃されたように
 - 教育は、複雑化するテクノロジー分野の産業とのキャリアとのギャップを埋める役割が求められる
 - 筆者の主張: ノースイースタン大学の経験教育は、学生を専門家にするだけでなく、クリエイターとして育てるべき
 - 知能機械が、労働者をルーティン(機械的作業)から解放し、転換を迫る経済・社会(機械が人間が行っている仕事を担うようになるデジタル時代)にあっても、**耐ロボット性**
【ロボット・プルーフ】を保証する新しいカリキュラムが必要
 - 人間特有の創造性と柔軟性の育成を目指す学問分野
「ヒューマニクス」の提唱 経験学習＋生涯学習の枠組み

7

大学カリキュラムの再考

- アメリカの教育制度のDNA: 19世紀から20世紀の産業経済のニーズに対応
 - 工場・官僚組織・金融で有用なスキル、数学・語学・科学といった**「ハードスキル」**に特化
 - リベラルアーツ、創造的な分野(音楽や芸術など)での**「ソフトスキル」**のようなメタ認知スキルを重視しない
- リチャード・アラムら(2011)『漂流する大学教育』(未邦訳)
 - 学部生の45% 大学2年までの間、批判的思考、複雑な推論、ライティングコミュニケーション能力が**非常に低い**
 - 大学4年生でも、36%にまったく改善が見られない
- 新しいリテラシーの習得・ロボット・プルーフな思考方法としての認知能力の獲得 → **人間固有の心的・知的な特性を育む学習モデル(学問分野)**としての**「ヒューマニクス(Humanics)」**

8

ヒューマニクスにおける新しいリテラシー

- リテラシー *litera* (文字)に由来する読み書き能力
 - 文字や数字も、口頭での表現を記号で表し、保存したり、他人へ伝達したりすることを可能とする
原初のヴァーチャル・リアリティ(VR)
 - リテラシーは情報を伝達し、創造性に火をつける
 - ヒューマニクスにおいては、3つの新しいリテラシー
技術リテラシー、データリテラシー、ヒューマンリテラシー
によって、他者だけでなく機械ともネットワークを構築することが可能に
 - さらには、デジタル世界を最大限に活用できるようになる

9

4つの「高次の認知能力」

- 新しいリテラシーを、基盤＝コアカリキュラムとし、高度技術社会に対応する4つの高次の認知能力を
 - アイディアを分析して応用し、複雑な系を理解し制御するために必要となるメタスキル
(批判的思考、システム思考)
 - ロボット・プルーフとなるのを助けるスキル
オリジナルな方法で価値を創造する(アントレプレナーシップ)
グローバルな社会環境で器用に立ち回り、異なる文化の人々がその課題や状況に持ち込む多様な理解と価値を正しく認識する能力(異文化アジリティ)

10

いま、『ROBOT-PROOF』をどう読むか

- 雇用者と大学教育の断絶を乗り越える大学経営戦略の一例
 - ボストン地区の大学は、ユニーク(different)であることを是とする
 - ノースイースタン大学の事例には、経験学習を看板に、多様なアクターを巻き込み、組織的・大規模に展開する力強さがある
 - アウン学長は、実は言語学者のレンズで、「ヒューマニクス」を構想
- AI時代、産業構造の第4の変革の時代に直面して
 - しかし、格差助長をよしとしない社会正義を大学の使命とする
 - 多様性の包摂、学生エンゲージメントを掲げない大学は見放される
 - 大学教育は、多様な経験に基づく知の創造を行うエンジンとなって、「知識革命の時代」へのパラダイムシフトを促す触媒となりうる
 - ヒューマンリテラシーへの回帰と高次認知能力の再定義は、マインドセット、社会情動性スキル(SEI)、学習科学を越境し統合しようとする、大学を構成する私たち自身の経験学習の体を取る

11

学びの(方法の)変化

ICT活用(高校)



ワークショップ形式

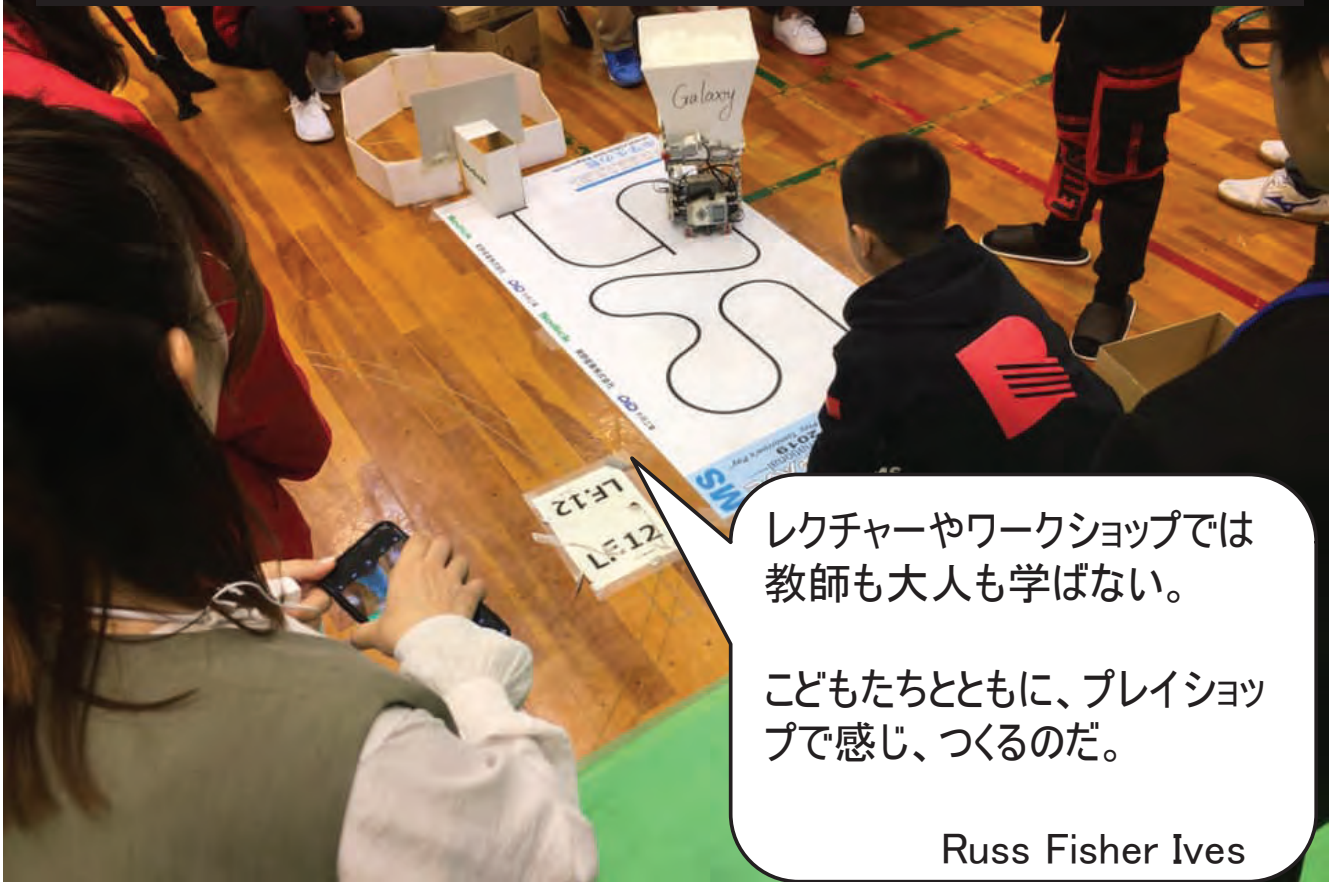


ポスターセッション



学生アドバイザー研修

STEAM教育（K-12、加賀市ロボレーブ）



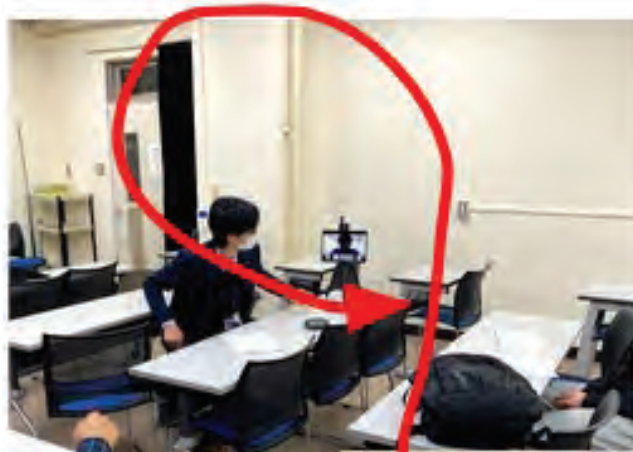
レクチャーやワークショップでは
教師も大人も学ばない。

こどもたちとともに、プレイショッ
プで感じ、つくるのだ。

Russ Fisher Ives

トークに向けて

- 顕在化した課題とは何だったか
- デジタル化に大きく巻き込まれた1年は、
「AI時代の大学教育」を実現する序章となりえるか
- 私たちが（これまで）大切にしてきた、知の拠点として
の大学は、（これから）虚像となるか実像となるか



「混ぜる」
オンラインからの発言
→
[iPad + スピーカーフォン]
← 教室内討論



緊急遠隔授業の教訓（5つの原則）

遠隔授業をはじめるために

学生の学びを中心にすえる

- ・教師が授業を届けるという発想では乗り越えられない高い壁がある。
- ・オンライン授業の修了率は、一般に5%に留まる。

完璧を目指さない

- ・10分のビデオを作成するのに2時間もかけてはいけない。
- ・いまは平時ではない、教材を届けることをまずは目指す。

そしてフィードバックを

- ・学生は、孤立する。学生同士の意見交換の機会を。
- ・設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な支援を行う。

組織的、かつ、俊敏な教育支援体制をつくる

- ・教科・学問分野によって、さまざまな形態が取れ、画一にはできない。
- ・実践知を集めることが、迅速な課題解決を促す。現場での意思決定を。

新しい時代につなげる

- ・いま遠隔授業に必要な工夫は、次の発明に結びつく。
- ・あなたとわたしが、いま見つけた成功と失敗の事例は、明日からのみんなの学びの場づくりの足場となる。

杉森公一 2020



17

デジタル時代の教育学（デジタル・ペダゴジー）

大学教育リ・デザインに向けて

緊急遠隔授業（Emergency Remote Instruction）から得られた知見・経験をどう活かし、新しい日常につなげていけばいいのだろうか？

大学教育リ・デザインに向けて、私たちが手にする道具やマインドセットは「デジタル時代の教育学」（digital pedagogy）にある

→ データやテクノロジーを理解すると同様に、人間の知性とリテラシーを涵養する教育の在り方に改めて焦点を当てること

“デジタル・ペダゴジーとは、正しくはデジタル・テクノロジーを使って教えることではなく、むしろ批判的教育学の視点からデジタル・ツールにアプローチすることにある。つまり、ツールを熟考して使うことと同じくらい、ツールを使わないと決めること、ツールが学習に与える影響に注意を払うことが重要である。”

cf. “Hybrid Pedagogy” <https://hybridpedagogy.org/tag/what-is-digital-pedagogy/>

cf. “Human Literacy” in *Robot-Proof: Higher Education in the Age of Artificial Intelligence* (Joseph E. Aoun, MIT press 2017, 森北出版 2020) [解説\(杉森\)](#)

18

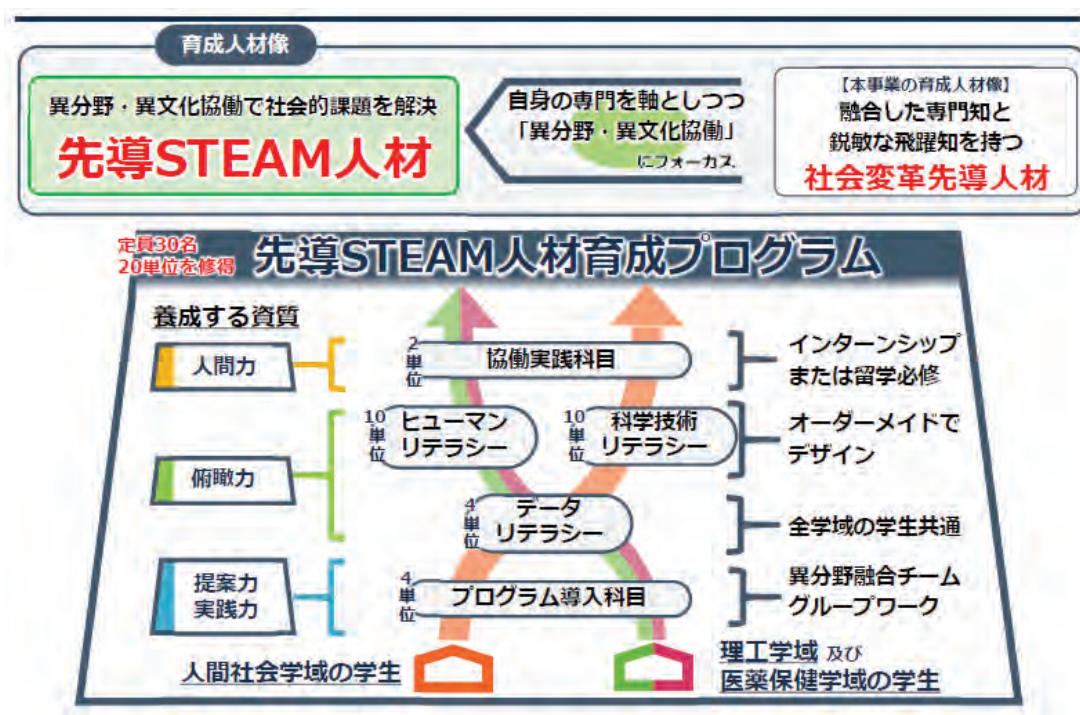
これからの大学の実像を結ぶ

- 大学教育のリテラシー・能力を再発見すること
 - ー リチャード・アラムら(2011)「漂流する大学教育」
 - ・学部生の45% 大学2年までの間、批判的思考、複雑な推論、ライティングコミュニケーション能力が非常に低い
 - ・大学4年生でも、36%にまったく改善が見られない
- 大学の役割の再定義
 - ー 学生の学びを中心にすえる
- 教員と学生の教育学習設計への再焦点化
 - ー オンデマンド、オンライン、ブレンド、ハイフレックス
- 学びを支える専門職・担い手の再役割分化
 - ー TA、ピアチューター、教材作成支援、学生相談

19

知識集約型社会の実現へ

金沢大学「先導STEAM人材育成プログラム」2021～



20

2020/02/20

Facebookグループ大学教員の 相互協力交流の広場から

「新型コロナのインパクトを受け、大学
教員は何をすべきか、何をしたいかにつ
いて知恵と情報を共有するグループ」

創設管理人

岡本仁宏（関西学院大学）

新型コロナ休講で、大学教員は何をすべきかについて知恵 ...

情報
ディスカッション
アナウンス
ルーム
メンバー
イベント
動画
写真
ファイル
ユニット
グループインサイト
動画ウォッチパーティ
グループを管理
グループのクオリティ

このグループを検索

ショートカット
「NPOと政治」スタデ...

参加済み ▼ お知らせ シェア ... その他

投稿する ルームを作成 写真・動画 ... その他

テキストを入力...

写真・動画 ルームを作成 動画ウォッチ...

このグループへの参加リクエストが2件あります

アナウンス すべて見る(100件)

岡本仁宏さんがグループをシェアしました。
管理者 · 8月15日 · 11.2 我々の対応：グ...

くく秋からのグループ展開に関するイベントとその準備アンケートへ>>ア

投稿の人気のトピック 管理する ×

- 4.3.1. オンライン授...
- 4.1. オンライン授業...
- 3.1. 大学の動向：国...
- 10. ひろば・雑談 (2...
- 5.1. 学生支援：生活...
- 4.3.5. オンライン授...
- 4.3.2. オンライン授...
- ...
- 1. 自己紹介 (252)
- 0. イベント情報 (130)

メンバーを招待 招待を埋め込む

+ 名前またはメールアドレスを入力...



新型コロナのインパクトを受け、
大学教員は何をすべきか、何をし
たいかについて知恵と情報を共有
するグループ

公開グループ・メンバー2.1万人



+ 招待する



情報 ディスカッション アナウンス メンバー イベント メディア その他 ▾



公開投稿を作成...



写真・動画



タグ付け



気分・アクティビティ

アナウンス・100件

すべて見る

グループ情報

<グループ情報>

【グループの趣旨・目的】

新型コロナウイルス感染症は、大学の授業や
その他業務に大きな困難をもたらしました。さ
らにこの事態が大学に引き起こす中長期的な影
響も見逃ごせません。その対応のために、所属
や専門を越えて、ボヤキや情報、取り組み、ノ

構成

1. グループの概要：はじまり、 展開と現状



2. 素人ながら、、、

- ① 驚きや学び：基本的機能の確認
- ② FBグループとしての特性と大学
- ③ 市民社会の中でのSNSグループ
の意味



3. グループの今後と大学教育の 展開



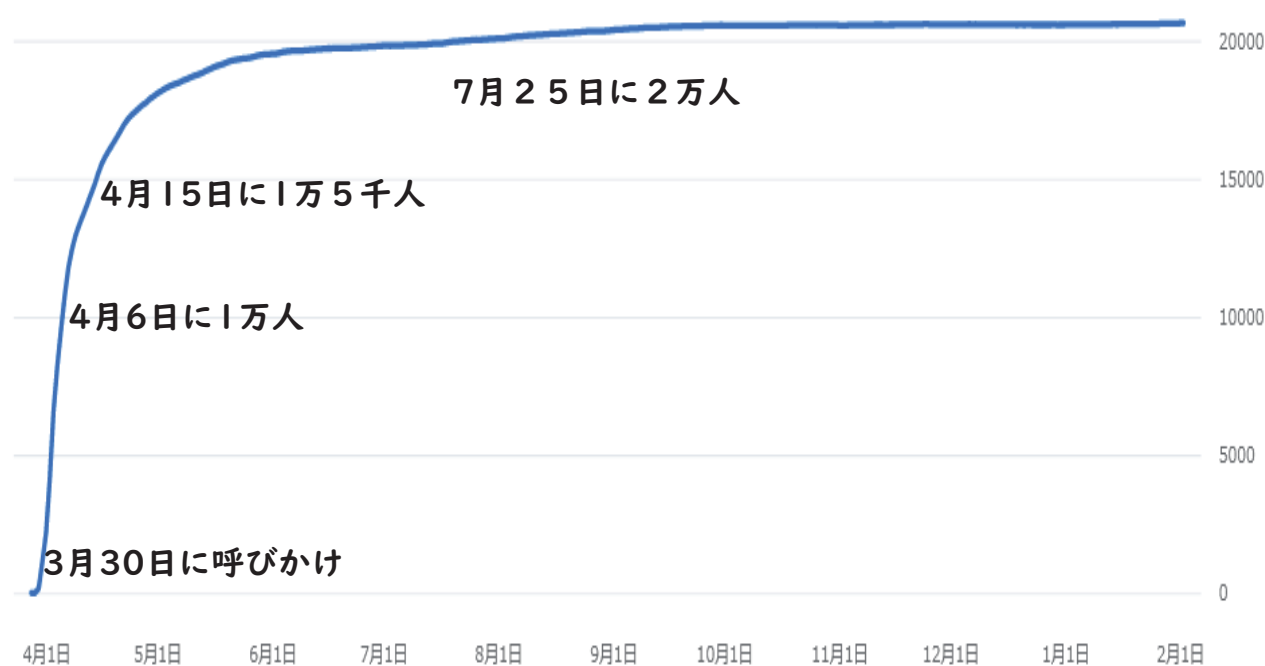
I, グループの概要

- ① はじまり
- ② 展開と現状
- ③ 自己紹介

メンバー数の推移

4月前半で1万5千人に達し、以後
緩やかに増加し現在約2万627人

2021/02/02



① はじまり

2020年3月30日から

設立趣旨

3月30日 グループ立ち上げ グループ情報

「新型コロナウイルス感染症で、大学の休講・休校が続いています。**この状況への対処について、ボヤキや情報、取り組み、ノウハウ、大学ごとの違いなどを共有するためのグループ**です。大学教員中心ですが、職員や学生の方、さらには大学教育に関心を持つあらゆる方々を歓迎いたします。」

3月31日 投稿

「突然1か月も授業ない、と言われて、どうするねん！それに一か月後も授業できるんかいな、ネットでもしなくちゃならんとして、どうしたらいいねん、的な、**状況共有と知恵の交換の場**であれば、と思います。状況報告を歓迎しています。なお、**ぼやきでも結構**です。」



岡本仁宏さんが新型コロナ休講で、大学教員は何をすべきかについて知恵と情報を共有するグループでアンケートを作成しました。
3月31日

大学の新学期の授業開始が遅れていますか。また、遅れている場合の大学や皆さんの対応についてお聞きします。

- 開始が遅れており、大学からは特にこの教育期間についての指示はない。

あなたが追加しました



- 実授業の開催はできないが、オンライン授業やその他の方法で授業をするので、開始は遅れない。

あなたが追加しました



- 開始が遅れており、大学から休講期間に教員として教育に関して行う課題が出されている

あなたが追加しました



- 実授業を行うので、開始は遅れていない。

あなたが追加しました



+ オプションを追加

トピック制とモデレータ制

- ・3月31日に千人超え、「大学の動向」、「オンラインでの授業方法」の2トピックを設置。同日、「実習、ワークショップ、対人援助等身体性に関わる授業」「何をすべきか」を追加。
- ・4月1日に2千人超え、モデレータボランティアを募集。
- ・4月2日に「大学の生活インフラ」「問題の整理」を追加。

② 展開と現状

構成と変化

【グループの趣旨・目的】

2020年9月22日改訂

新型コロナウイルス感染症は、大学の授業やその他の業務に大きな困難をもたらしました。さらにもこの事態が大学に引き起こす中長期的な影響も見過ごせません。その対応のために、所属や専門を越えて、ボヤキや情報、取り組み、ノウハウ、経験などの知を共有するため、このグループです。大学教員中心ですが、職員や学生の方、さらには大学教育に関心を持つあらゆる方々を歓迎いたします。

トピック構成

1.1. 総合窓口 ：自己紹介	投稿 253	4.1. 授業方法：設計・方法論	382	5.1. 学生支援：生活支援	284
1.2. 総合窓口 ：質問	110	4.2. 授業方法：成績評価	50	5.2. 学生支援：マイノリティ学生	68
2.1. 交流ひろば ：イベント情報	239	4.3.1. 授業方法／ツール：Zoom	416	5.3. 学生支援 ：就職活動・インターンシップ	16
2.2. 交流ひろば ：この指とまれ	9	4.3.2. 授業方法／ツール：Google	158	5.4. 学生支援：入試・高大接続	63
2.3. 交流ひろば ：関連グループ	13	4.3.3. 授業方法／ツール：同時双方向型・リアルタイム配信ツール	94	6.1. 研究関係：研究全般	37
2.4. 交流ひろば ：雑談	372	4.3.4. 授業方法／ツール：オンデマンド教材での工夫	131	6.2. 研究関係：調査協力依頼	22
3.1. 大学等の動向 ：国内	397	4.3.5. 授業方法／ツール ：上記以外のツールとアプリ	266	6.3. 研究関係：研究プロジェクト・共同研究	1
3.2. 大学等の動向 ：海外	114	4.3.6. 授業方法／ツール：各社への要請（ZoomとGoogle 以外）	16	7.1. 教職員支援：全般	35
		4.4.1. 授業方法／スタイル ：実験・実技	85	7.2. 教職員支援：非常勤講師	45
		4.4.2. 授業方法／スタイル ：実習・フィールドワーク	56	8.1. 大学のインフラ ：情報環境の設定・維持	73
		4.4.3. 授業方法／スタイル：語学	46	8.2. 大学のインフラ ：セキュリティ関係	55
		4.4.4. 授業方法／スタイル：講義	53	8.3. 大学のインフラ ：図書館サービス	36
		4.4.5. 授業方法／スタイル ：演習・ゼミナール・卒業研究	25	8.4. 大学のインフラ：生活インフラ	52
		4.5. 授業方法：著作権関係	71	9.1. 我々の対応：問題提起と整理	82
		4.6.1. 授業方法／対面授業再開 ：感染防止対策下	122	9.1.1. 我々の対応 ：「9月入学」問題	25
		4.6.2. 授業方法／対面授業再開 ：ハイブリッド授業	49	9.1.2. 我々の対応／問題提起 ：遠隔授業導入の影響	27
				9.2. 我々の対応 ：グループ運営について	59
				9.3. 我々の対応：新規トピック提案	0
				9.3.1. 我々の対応：研究者・研究者 コミュニティと政府行政の関係	9

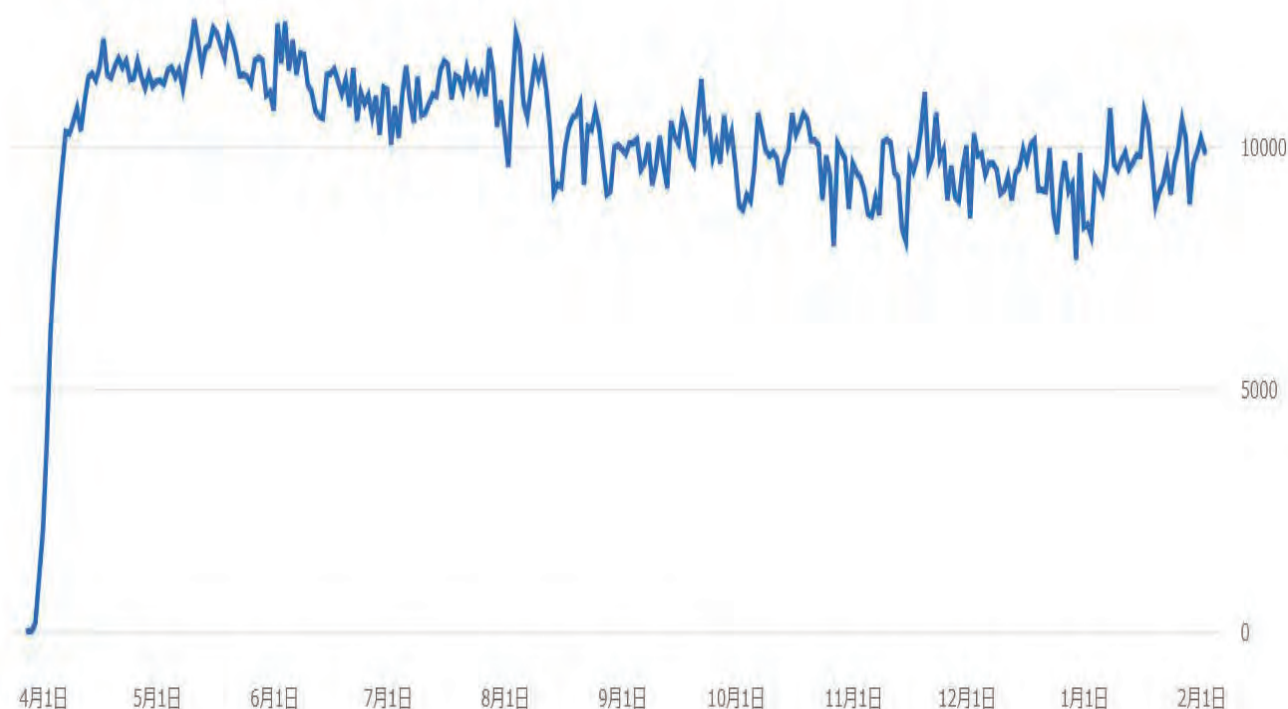
2020/03/28 - 2021/02/02

投稿等の数は、 低下してきている。



アクティブメンバーは、 毎日9千～1万程度を維持

2020/03/30 - 2021/02/04



永松敦

1月8日 18:19

オンライン授業での悩み事です・・・本学は7割以上が女性で、特に、私の授業になると95パーセント程度は女性になるのですが、オンラインで全員、真黒な状態（顔を出さない）が続きます。初めに、体調の悪い方はカメラをオフにしてもいいです...

あなた、出口 正之、小嶋 新、他119人

コメント109件 シェア9件 11,273人が既読

Kazuko Fujiiさんがリンクをシェアしました。

1月18日 0:28

ここまで？

Masahiro Kozuka、山上 博信、他126人

コメント93件 シェア10件 10,278人が既読

尾方 僚

2月1日 20:52

デジタルハリウッド大学、その他いろんな大学で「キャリアデザイン」の授業を担当している尾方です。この1年みなさまお疲れ様でした。みなさまからの情報に助けられました。デジタルハリウッド大学では完全ハイブリッドの授業をやりました。その様...

あなた、長岡 さちな、出口 正之、他384人

コメント56件 シェア83件 10,771人が既読

樋田 泰浩さんがリンクをシェアしました。

1月19日 22:14

#～鼻出しマスク、「マスクの品格」の著者のコメント～マスクの効果に詳しい聖路加国際大学の大西一成准教授（環境疫学）は「呼吸やくしゃみの際は、鼻からも飛沫（ひまつ）が出る。もし感染者が鼻を出してマスクしていた場合、周囲に感染させる...

あなた、岡本 清美、他64人

コメント100件 シェア3件 9,180人が既読

Takeshi Ogawaさんがリンクをシェアしました。

1月18日 4:34

【受験生に対する適切な指導とは国語の定規の案件】専修大学(経済)のOGAWAと申します。今回の共通テストでの無効案件、鼻なしマスクの事案ばかり注目されますが、本来問題とすべきはこの「国語の定規」での無効の案件かと思われます。(今回特に...

あなた、Ikumi Ozawa、關谷 暁子、他184人

コメント71件 シェア9件 10,645人が既読

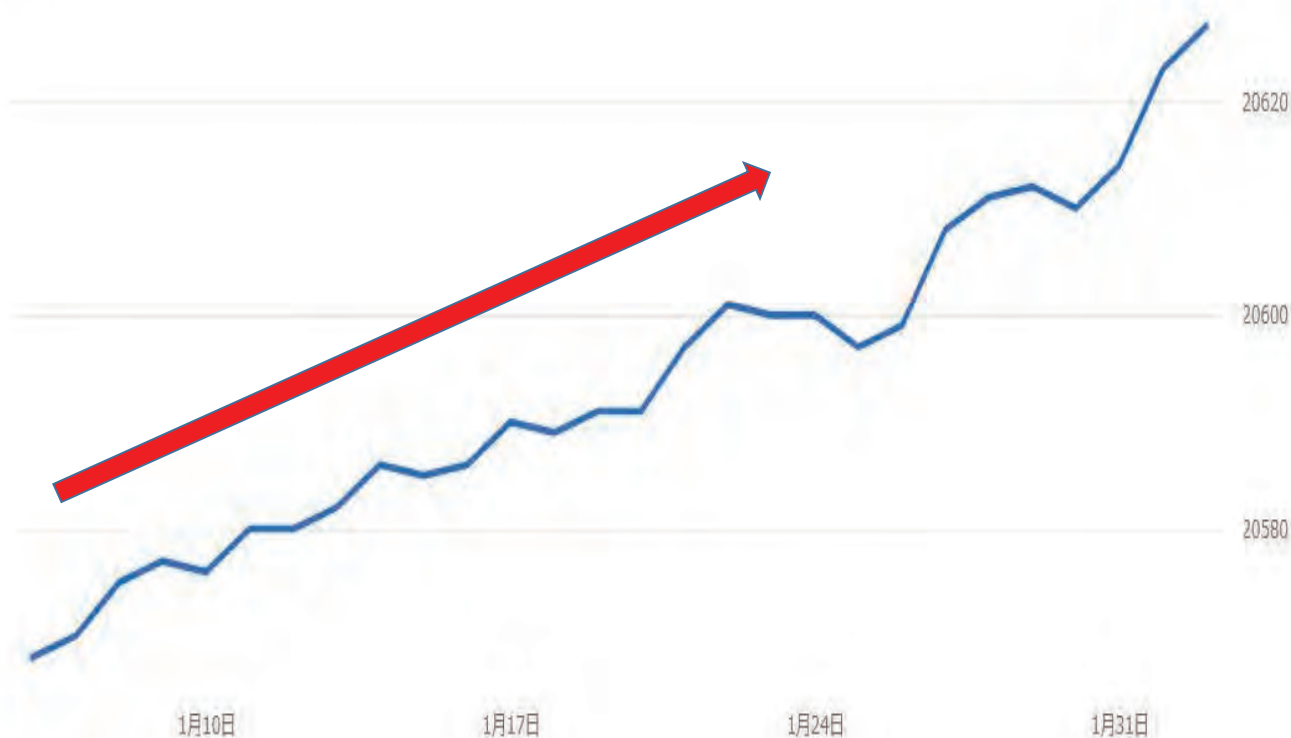
合計メンバー20,627人 ⓘ

▲ 2021/01/05から0.29%

2021/02/02

年明けから増加の兆し

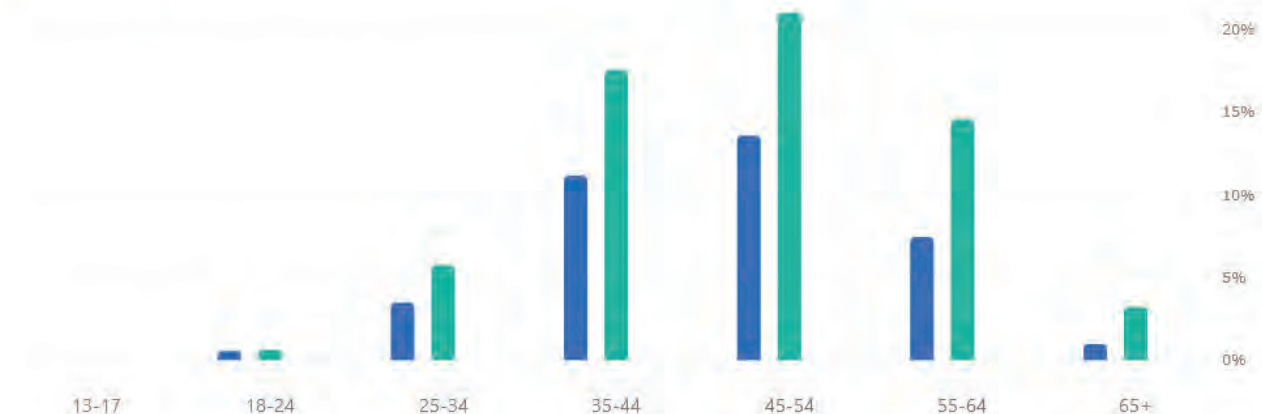
最近28日間データ



年齢・性別 ⓘ

2021/01/08 - 2021/02/04

● 37% 女性 ● 63% 男性 ● 0% カスタム



トップ国

日本	20,186
米国	87
韓国	45
台湾	40
タイ	39

トップ都市

Kyoto京都市	1,152
Tokyo世田谷区	973
Kanagawa横浜市	892
AichiNagoya-shi	749
Osaka大阪市	618

自己紹介

1. 岡本 仁宏（おかもと まさひろ）
1955年生 e-mail: whiteokamoto@gmail.com
2. 関西学院大学法学部・法学研究科教授
3. 専門：二足の草鞋 **市民社会論**
 - ① 西洋政治思想史・政治哲学
 - ② 非営利組織（NPO）論

他に管理人：小澤伊久美（ICU）、杉森公一（金沢大学）、小塚真啓（岡山大学）

モデレータ（石上敬子、稲垣立男、岡本清美、勝谷紀子、小林康平、杉田郁代、杉原亨、關谷暁子、中島健一朗、林智昭、藤原慶二、森田里津子、山崎泰央、山本もと子）

（2021年2月1日現在）

この経験から
いろいろな意味が
引き出せるかもしれない



例えば？

・ 大学

- ・ この経験は大学の姿に、どんな影響があった、あるのだろうか？
- ・ 大学教員ってどんな姿をしているのだろうか？
- ・ 「見えてしまった」こと：悲惨な現実？
- ・ 専門外の大学教員の「連携」「共同」とか可能か？
- ・ 遠隔を含んだ新しい教育実践の最前線の報告？
- ・ 変わりつつある人間社会と大学：何が起ころうとしている？

・ 「FD」

- ・ 史上最大？の「FD」の機会？ 変わった？ なぜ？
- ・ FD関係の専門機関・学会や、大学の連合体は何してた？
- ・ なんてFBグループ？ FDにSNSって使える？ 知と情の共有空間？

・ SNS (FB)

- ・ FBグループって何？ なぜそんなことしてる？ 社会学的意味は？ NPO？
- ・ どうやって運営してるの？ 運営実態や運営ノウハウは？
- ・ 大学や大学教員にとって？ 何か使えるの？ インパクトは？
- ・ エコーチェンバー現象？ 炎上？
- ・ 市民社会にとって？ 民主主義にとって？

・ 政治・メディア、そして大学教育現場の情報発信

- ・ 「対面しろ！」無責任 ・ 「たたくより、サポートしろよ！」
- ・ 状況の把握と発信

・ メタレベル

- ・ 「なんなんだ、これは？！」

2, 素人ながら・・・

- ① 驚きや学び：基本的機能の確認
- ② FBグループとしての特性と大学
- ③ 市民社会の中でのSNSグループの意味

<驚きや学び>

1. 大学教員は教育に結構**真摯**だということ

- ・具体的な授業の工夫や学生対応の中での赤裸々な悩みから浮かび上がってきた。

2. **多様性**があること

① **大学規模**や**立地**

② **専任・非常勤**

③ **専門性**：

④ **授業形態**：

⑤ **ツール**：

**すぎる場がある
かどうかに影響**



**ただし、基礎組織に応答
性やチーム性があるかは
別問題**

機能

1. 情報の交換・相互支援

- ① 情勢・動向に関する情報
- ② ノウハウ、技術、知恵に関する情報：機器・アプリから、遠隔授業方法まで

2. 状況の共有

- ① 同時進行的に起こる混乱・困惑
- ② 新しい世界の驚きや発見

3. 共感

- ① “愚痴” やしんどい出来事の発露と同感
- ② よい知恵や努力への賞賛

4. 広報媒体

- ① 研修機会、授業発表等
- ② 有料サービス

5. そのほか

トピック構成

1.1. 総合窓口 ：自己紹介	投稿 253	4.1. 授業方法：設計・方法論	382	5.1. 学生支援：生活支援	284
1.2. 総合窓口 ：質問	110	4.2. 授業方法：成績評価	50	5.2. 学生支援：マイノリティ学生	68
2.1. 交流ひろば ：イベント情報	239	4.3.1. 授業方法／ツール：Zoom	416	5.3. 学生支援 ：就職活動・インターンシップ	16
2.2. 交流ひろば ：この指とまれ	9	4.3.2. 授業方法／ツール：Google	158	5.4. 学生支援：入試・高大接続	63
2.3. 交流ひろば ：関連グループ	13	4.3.3. 授業方法／ツール：同時双方向型・リアルタイム配信ツール	94	6.1. 研究関係：研究全般	37
2.4. 交流ひろば ：雑談	372	4.3.4. 授業方法／ツール：オンデマンド教材での工夫	131	6.2. 研究関係：調査協力依頼	22
3.1. 大学等の動向 ：国内	397	4.3.5. 授業方法／ツール ：上記以外のツールとアプリ	266	6.3. 研究関係：研究プロジェクト・共同研究	1
3.2. 大学等の動向 ：海外	114	4.3.6. 授業方法／ツール：各社への要請（ZoomとGoogle 以外）	16	7.1. 教職員支援：全般	35
		4.4.1. 授業方法／スタイル ：実験・実技	85	7.2. 教職員支援：非常勤講師	45
		4.4.2. 授業方法／スタイル ：実習・フィールドワーク	56	8.1. 大学のインフラ ：情報環境の設定・維持	73
		4.4.3. 授業方法／スタイル：語学	46	8.2. 大学のインフラ ：セキュリティ関係	55
		4.4.4. 授業方法／スタイル：講義	53	8.3. 大学のインフラ ：図書館サービス	36
		4.4.5. 授業方法／スタイル ：演習・ゼミナール・卒業研究	25	8.4. 大学のインフラ：生活インフラ	52
		4.5. 授業方法：著作権関係	71	9.1. 我々の対応：問題提起と整理	82
		4.6.1. 授業方法／対面授業再開 ：感染防止対策下	122	9.1.1. 我々の対応 ：「9月入学」問題	25
		4.6.2. 授業方法／対面授業再開 ：ハイブリッド授業	49	9.1.2. 我々の対応／問題提起 ：遠隔授業導入の影響	27
				9.2. 我々の対応 ：グループ運営について	59
				9.3. 我々の対応：新規トピック提案	0
				9.3.1. 我々の対応：研究者・研究者 コミュニティと政府行政の関係	9

FBの特性と運営

- Social Networking Service は、（一定の記録性を持った）会話ができる広場であり得る。ただし、会話的に流れていく情報の側面が強い。
 - 通時的に知を蓄積し、分類体系化して提供する機能としての図書館
 - 共時的に知を交流し、体系化以前の知や経験を交流する場としてのSNS
- 効率的に知識を得るためには、体系的教育が有利
 - 記録から情報を体系化・組織化するためには独自の工夫が必要。FBでは、「ユニット」制（学習用のシステムで、管理者側がクリアすべき課題（情報）を組織してユニットを構成）がある。

教育組織ではなく交流の場

- ・ ユニット制を取ってこなかったのは、このグループが教育組織ではなく交流の場としての位置づけを重視してきたから。
 - ・ グループ外で、多様な教育機関・専門機関が存在しセミナーなどを開催。
 - ・ 情報は常にアップデートされる必要があるがそういう遠隔教育専門スタッフによって運営されているグループではない。
 - ・ 教育学者や遠隔教育の専門家が上から目線で「教える」場であるよりも、お互いに教えあい情報を共有するという広場としての機能を強調。
 - ・ 失敗体験の共有も重要であると意識。初心者の質問投稿も歓迎。
- ・ 知のアーカイブ化は、例えば、東京海洋大学附属図書館サイトなどで試みられている。

https://lib.s.kaiyodai.ac.jp/online_lecture/link_faculty/

大学図書館とSNS（FBグループ）という視角からの整理

1. 第一義的に、**時間軸において知を蓄積し提供**するツール・場としての**大学図書館**（研究・教育機関の中にある図書館としての役割）
 2. 第一義的に、**空間軸において知を交流し提供**するツール・場としての**SNS**
 - ・ 交換された知を蓄積し体系化することに優れたツールではない（トピック、ファイル、ユニット等はあるが）。時間とともに流れ去る知を、つなぎ止め整理し引き出すためには？
 - ・ 未整理な、現場の苦しみや悩み、問いを交流し、それに対して情報を提供しあうこと
 - ・ 現場の状況を共有することによって、自らの問題の普遍化への道を提供し、empowerすること
- ・ **双方から**
- ・ **ネットの側から**⇒ブログ、ウェブページ、**オンライン辞書（wiki）**、アーカイブ化、オンラインデータベース等（次第に**知が体系化**されストックされていく）
 - ・ **図書館の側から**⇒コモンズの併設、学習支援などの相談機能を担う学生組織化、博物館や芸術系（イベントや空間）展開、サポーターの組織化（お金だけでなく）、ヒトの組織化やアウトリーチの展開、「**図書館**」（仮称）**リ・デザイン会議**等、（次第に**知が解放**され流れていく）

「内部資源供給者としての大学」から 「知的ネットワークの結節点としての 大学」へ

参考：（22年前ですが）岡本仁宏「知的ネットワークの結節点としての大学とポスト生涯学習」『総研ジャーナル』（73）関西学院大学総合教育研究室、1998-10

市民社会の一形態としてのSNSと いう公論の広場

1. 多くのSNS空間に関する危惧

- ① 公論において、SNSが、echo chamber効果、蛸壺化等と表現される**分断を促進する**のではないか。
- ② 怒りや情動的な表現が早急に伝わり、**ヘイトスピーチ**が蔓延するのではないか。
- ③ **フェイク情報**の拡散の場として、不正確な流言飛語をばら撒く場となるのではないか。

2. 「メディアリテラシー」から「メディア発信者」への市民の役割の変化を踏まえた議論が必要。

3. 発信と討論などの言説体験による学びを得られる**特定目的を持った広場の重要性**

4. **市民社会論**は、①NPOや相互扶助組織などの**組織論**的議論（トクヴィル、パットナム等）と、②言説を中心とした**公論**的議論（ハーバーマス）との**二元的構成**によって把握されるべき。多くのNPOが市民社会を構成するように、多くの多様な目的を持った公論の場の形成が重要ではないか。

集う人の広場を持った図書館？

3, 大学教育の展開と グループの今後

「もう元には戻れない」、 どころではない。

○ もう元には戻れない。

「文科省やマスコミや保護者が何と言おうと、学生たちはこの1年でそのメリットを既に享受してしまっている、ということです。そのような学生たちに対して、今後感染拡大状況が収まったからと言って100%対面授業を画一的に求めることは、場合によってはむしろ大学教育の「後退」とさえ受け止められかねないのではないか、というのが私の危惧するところです。これまで「学生の側の環境が整わない(ことを想定しなければならない)」という理由でできなかったオンラインツールの使用を前提とした授業運営が、コロナ禍によって(曲がりなりにも)せっかく可能になったのだから、それらをどのように組み込んでよりよい教育を作り上げていくかを考えていくのが今後5年、10年、20年先を見据えた課題ではないでしょうか。少なくとも、**オンライン授業を「コロナ禍における緊急避難的措置」としてのみ捉える段階はもはや過ぎたと認識しています。**」松尾 俊輔 2021/02/05

<https://www.facebook.com/groups/146940180042907/permalink/325871132149810>

○ MOOCs革命の衝撃

金成 隆一『ルポ MOOC革命——無料オンライン授業の』岩波書店、2013

2013年の話だけれど、急激に展開する可能性が広がる。授業形態、大学制度、雇用の姿の変容

○ Google Career Certificates グーグルによる教育プログラム

https://careers.google.com/stories/edu-resources-programs/?hl=ja_jp

https://grow.google/certificates/#?modal_active=none

<https://www.inc.com/justin-bariso/google-plan-disrupt-college-degree-university-higher-education-certificate-project-management-data-analyst.html?cid=sf01002>

○ 日本の役所では

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(中教審第228号)令和3年1月26日中央教育審議会

「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿 ～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～」(審議まとめ)(平成31年1月22日 大学分科会)平成31年1月22日 中央教育審議会大学分科会?

+

0

進化 の 途上

- あまりの変容の奥深さに、言葉を失う水準
 - この深さの水準に対する自覚があるか。
- コミュニケーション手段の変容、情報処理能力の変容は、社会の変容、人間の変容をもたらす。
- 使うつもりが、人間自体が変容しつつある。
- Maryanne Wolf, *Reader, Come Home: The Reading Brain in a Digital World*, Harper, 2018 (メアリアン・ウルフ、太田直子訳『デジタルで読む脳×紙の本で読む脳:「深い読み」ができるバイリテラシー脳を育てる』インターシフト、2020年)
- Jamie Bartlett, *The People Vs Tech: How the internet is killing democracy (and how we save it)*, Ebury Press, 2018 (ジェイミー・バートレット、秋山 勝訳『操られる民主主義: デジタル・テクノロジーはいかにして社会を破壊するか』草思社、2018)
- ユヴァル・ノア・ハラリ の一連の著作、特に、『ホモ・デウス』『21レッスンズ』等

大学（教育・研究）の 大きな変容は不可避

- 遠隔化の展開、MOOCsの展開（逆に教育における身体性の持つ意味が問われる）
- 不可避的な社会へのAIインパクト、グローバルインパクト（J・F・アウン『ROBOT-PROOF: AI時代の大学教育』2020）
- **今の大学の姿は急速に変わる。誰も明確に予想できない。多くの構想や実験が展開。**
- **大学のインフラも変容し、大学教員の仕事の姿、雇用構造も変容が目前に。**
- **変容に備えた投資をしない大学は…???**

グループから見えてくる大学の 対応における**当面の危惧**

例えば

1. 感染の広がりと授業方法選択との間の適切な応答関係

文科省の対面圧力、入試戦略広報のゆがみ、特に上級生の遠隔指向と大学の新展開への対応、学生・教職員の個別状況の配慮がある対応等、前提としての陽性者情報や大学の対応情報の集約と公開

2. 一年生の大学コミュニティへの受け入れ

私学では半数程度の新入生が決まっているが入学前準備教育の機会を逸していないか。遠隔授業対応機器やインフラ、アプリ・ノウハウ、遠隔でも可能なコミュニティ形成戦略等：**入学前教育は？**

3. 遠隔やハイブリッド授業による授業の質の格差への対処

実体的な授業の姿を把握しているか、学生・教員とのコミュと支援

大学の規模や財務状況による支援体制の違い、非常勤講師支援、実技・実習、フィールドワーク等の状況把握と知恵の蓄積

4. 学生及び非常勤の経済的状況や社会的孤立の持続的把握に基づく対策

一過性のものでない継続的状況把握と視点の必要

【相互に気にかけて合おう】



By 関谷 暁子 (北陸大学)
2021/01/06 投稿 から

「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」

<https://www.facebook.com/groups/146940180042907>

4, 最後に

グループの今後 (7月16日から定期的に検討)

A) 現在のグループを「アーカイブ化」し終息する。

期間を定め、新グループや既存の関係グループの紹介を行い、移行や参加をグループとして支援する。

(新規参加登録ができなくなり、既存のメンバーは投稿不可だが閲覧は可能、グループ外の方からは閲覧できなくなる。)

B) ミッション (趣旨目的) を再定義し、Covid-19 対応を含むがそれに限らず、ICT対応など中長期課題対応を含めた大学人の交流グループとする。

① 遠隔授業と大学教育の将来を議論する場

予想される大きな変容に対して、現場の声を表現し、議論できる可能性

② 分野や専門性を超えた大学教員の広場

大学教育に関するソーシャルキャピタル培養の場

C) 少なくとも夏まで、現行で維持する。

⇒ 今後年度末に向けて、対応を協議

「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」

<https://www.facebook.com/groups/146940180042907>

岡本 e-mail: whiteokamoto@gmail.com

【グループの趣旨・目的】 2020年9月22日改訂

新型コロナウイルス感染症は、大学の授業やその他業務に**大きな困難**をもたらしました。さらにこの事態が大学に引き起こす**中長期的な影響**も見過ごせません。その対応のために、**所属や専門を越えて、ボヤキや情報、取り組み、ノウハウ、経験などの知を共有するためのグループ**です。大学教員中心ですが、職員や学生の方、さらには大学教育に関心を持つあらゆる方々を歓迎いたします。

グループへのご参加については、下記をご注意ください。

<https://www.facebook.com/groups/146940180042907/permalink/284113959658861/>

- ・4つの質問へのご回答をお願いしています。
- ・これは、スパムアカウントや間違いでの参加を防ぐためです。機種やアプリによって、見にくい場合があるようです。面倒ですがご海容ください。